

2017年6月16日 第3203回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 谷 会長
<斉 唱> 「それこそロータリー」
<ゲスト紹介> *米山奨学生 金 穂 勲 様
<ビジター紹介> *東京日本橋ロータリークラブ 中 村 雅 信 様
<会 長 報 告> *三浦RCより2017～18年度第1グループ合同例会のご案内について
日 時：7月27日(木) 受付/昼食 11:30～
開会・点鐘 12:30
会 場：横須賀商工会議所 1F「多目的ホール」

- <幹 事 報 告> *週報・・・横須賀南西RCより
*横須賀北RCより2016～2017年度IM報告書 着
*例会終了後第6回被選理事役員会開催(於：例会場)

- <出 席 報 告> *出席委員会 澤田委員長より6月16日の出席率

会 員 数	出席対象者数	出 席 数	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
110名	94名	61名	33名	5名	69.47%

<ニコニコ報告>

- ・齋藤 眞、久保田、佐久間、前 川 各会員
米山奨学生 金 穂勲さんようこそ。おいしいお寿司を楽しんでください。
- ・三 役 久保田会員、本日VTT報告よろしくお願いいたします。
- ・勝 見、ENORA、瀬 戸、福 西、鈴木 蘭、井 莉、渡 邊、植 田、
岩 瀬、澤 田、薦 野、勝 間、新倉 健、若麻 績、飯 塚、岡 田、
根 岸、高橋 倫、長 尾、山 ・、土 田、齋藤 眞、丸 山、藤 村、
小 山、齋藤 眞、徳 永、江 沢、前 田、鈴木 蘭、長 坂 各会員
久保田会員、ごくろうさまでした。本日のVTT報告、よろしくお願ひします。
楽しみにしております。
- ・田邊8番テーブルサブマスター 先日の8番テーブルミーティング、山下幹事、物井SAA、事務局
三宅さんに御参加頂きまして有難うございます。総勢12名で楽しいミーティングが
できました。石田さん、高橋隆一さん、おいしい焼酎と日本酒ありがとうございました。
- ・猿 丸、大 竹、植 田、上 林、物 井 各会員 6月14日、祇園の接待が横須賀で味わえると評
判のあら井にて8番テーブルミーティングが開催されました。高橋仁子マスター、田邊
サブマスターご苦労様でした。高橋マスター、美味しいお食事また、石田会員、高橋隆
一会員、美味しいお酒の差入れありがとうございました。
- ・高橋 倫 会員 8番テーブルミーティング参加できず申し訳ありません。
- ・山 ・ 会員 先日の神奈川歯科大学、ジャカランタ・フェスティバルでは鹿島会員に大変御世話に
成りました。御盛況、おめでとうございました。
- ・田 邊 会員 写真をいただいています

<卓 話>

VTT 報告

「ロータリーの夢を次世代へ！」～未来を繋ぐキューピットボウ～

久保田 英 朗 会 員

私ごとですが、37年間にわたり幾つかの私立大学や国立大学に在籍し、公人として勤務してきました。人生80年とすると、今まではほぼ4分の3を費やしたことになります。つい最近のことですが、残り4分の1の人生を自分のために使おうという気になりました。20年前在職していた佐賀大学から、神奈川歯科大学に教授として赴任することになった時、父は賛成してくれましたが、母は大反対でした。そこで、親戚一同集まり、10年で帰るという誓約書を書かされ、赴任したことを思い出します。その時の証人である伯父が一人残っていますが、父と一緒に開業するのは、最初から無理だと思っていたと回想しています。しかし、私の心の中には、何時か父との約束を果たさねばならないという気持ちがありました。思い立ったら実行あるのみで、平成27年に福岡の実家で歯科医院を再開しました。



さて、この25年以上、ベトナム、モンゴルあるいはフィリピンで、口唇口蓋裂児のボランティア手術活動を行ってきました。大学に所属する教員の学外活動として、このようなボランティア活動は高く評価されるものですが、大学から、国から、また横須賀ロータリークラブからの資金援助など、いくつかの経済的支援を得て今日まで続けてきました。この活動を通じて思うことは、他国の医師であるにも関わらず、現地の患者とその親たちが私たちに全幅の信頼を寄せてくれることだと思います。まさに、日本では忘れられてしまった医師と患者の良好な信頼関係が実感でき、医師冥利につきる思いがします。それが、私たちがこの活動を長年続けてこられた原動力だと思います。

「口唇口蓋裂」は、体表面に発生する奇形の中で一番頻度の高い奇形であり、アジアの国々では、500~600人に一人という割合で発症します。この奇形に伴う障害は多岐に渡り、それを治療するには、手術を行う歯科医・耳鼻科医・形成外科医に加えて、産婦人科医や小児科医の協力も必要不可欠です。そして患者には、長期に渡って一貫した治療が必要になります。日本では、18歳未満は育成医療、18歳以上になると更生医療という制度が確立されており、完治するまで数回に渡る手術が必要になりますが、その費用を全て国が補償し患者の負担はありません。しかし、アジアの諸国の中には十分な医療制度が確立されておらず、かつ貧富の差が激しいため、障害を持ったまま大人にならざるを得ないという状況の国が多数あります。

さて、フィリピンでのプロジェクトは、1999年からスタートしましたが、ロータリークラブのグローバル補助金(VTT:職業研修チーム)を得ての活動は、ロータリー年度の2014年、2015年、2016年の3期に渡るものでした。活動を行った現地病院はネグロス島のHoly Child病院とセブ島のAdventist病院です。2014年6月には現地の医師、看護師、言語聴覚士を日本に招き、治療技術の研修を行うことができました。活動には、現地3860地区のDumaguete SouthロータリークラブとRC of Cebuの会員の全面的支援のもとに行われてきました。私たちのVTT活動の目的は、ただ単に私たちが現地で医療活動を行うのではなく、現地の医療人に口唇口蓋裂の手術が出来るように技術移転し、将来は現地の医療者が独力で患者の一貫治療が行えるようにすることです。

フィリピンでは都市部を除き、農園労働者が多く、その平均月収は約1,000ペソ(約2,000円)ですが、治療には2年分の収入の約25,000ペソ(約50,000円)近くが掛かります。2016年8月のセブ市での活動は、2台の手術台を使用し、1日に8人、4日間で23名の手術を行いました。その間、手術は私たちと現地の医療スタッフが協力して行い、患者の術後のケアは、同島のSouthwestern大学歯学部で、同大学のスタッフによって行われました。これも、長年行ってきた活動で、口唇口蓋裂医療の技術移転が実を結んできたことの証だと思います。VTT活動の中で大切なのは、その国のニーズをしっかりと把握し、その国のルールに従って医療活動を行うということです。そして、何より現地のパートナーと共に活動を行うことが大切だと思います。

今回の活動に関し、現地ロータリークラブとの交流を行い、関与した両国のスタッフには感謝状の贈呈が行われました。日本から参加してくれた医療スタッフたちは、日本と他国の医療の現状をつぶさに垣間見ることが出来たこと、多様性に富んでいる歯科医の役割が体験出来たこと等、海外奉仕活動の素晴らしさを再認識したようです。この活動は、横須賀ロータリークラブの歴代会長である鈴木康仁様、飯塚進一郎様、吉田 清様、明野充功様、加藤元章様、谷 繁信様 の年度にわたり行われました。ひとえに横須賀ロータリークラブのV T T委員会委員の皆様、また会員の皆様の協力なくしては、実現できなかったものと思いません。横須賀ロータリークラブの海外奉仕活動の一つとしてこの活動が未永く続くことを願っております。



Patients and their family gathered together at Southwestern university for removing sutures and palatal plate. They looks all happy.



<閉会・点鐘> 13:30 谷 会長

週報担当 吉田 啓司